

「スポーツ医科学」新設

弘大16年度予算案105億円超

中期目標達成へ 農業など3戦略展開

弘前大学は26日、2016年度の予算案の概要を発表した。運営交付金は前年度比700万円増の105億5000万円。大学の特色を生かした取り組みを支援する経費「機能強化促進分」は1億4000万円で、地域特性・資源を生かした理工系人材の育成など、第3期中期目標（16～21年度）達成に向けて三つの戦略を展開する。組織整備関係では、大学院医学研究科博士課程にスポーツ医科学・社会医学推進枠を新設し、地域の健康増進に貢献する人材育成に力を入れる。

（成田真矢）

同日、佐藤学長が定例会見で明らかにした。昨年12月25日に文部科学省から弘大に予算内示があった。運営交付金のうち組織整備関係については、大学改革に伴う学部・大学院の入学定員の改訂を反映。学部は、理系学部を90人増、文系学部を150人減とし、全体で60人の減員。大学院は、医学・保健学・理工学の3研究科合わせて52人を増員する。

このうち、医学研究科に新設されるスポーツ医科学・社会医学推進枠では、スポーツ医科学を基盤にした社会貢献や医学的知識を基にした地域の健康づくりに関心のある人を対象に、若手公募する。

機能強化促進分は、現在弘大で取り組まれている教育研究活動の強化を図るもので、▽アグリ・ライフ・グリーン分野における地域特性・資源を活かした再生可能エネルギーの三つの戦略についての予算措置。

アグリでは、県産食材の高付加価値化や販売戦略、医療産業への育成、農業・水産業への再生可能エネルギーの活用法の検討などを、理工系や地域インフレーションの人材育成を図る。この中で、医学部・保健学部などが行う健康に関する取り組みを集約した「健康未来イノベーションセンター」を創設、被ばくでは被ばく医療における国際的な教育・研究拠点の形成を目指す。

スポーツ医科学・社会医学推進枠については、「健康増進のために、運動やスポーツで社会づくりに貢献する人材を育成したい」と話し、機能強化促進分の戦略について「農業、ライフサイエンス、再生可能エネルギーは森原の基本計画にもある項目。本学としても研究推進していきたい」とそれに一致した形で研と語った。

世界に発信し 地域と共に創造する

HIROSAKI UNIVERSITY

2016年度予算案の概要について 説明する佐藤学長

弘前大学長 佐藤